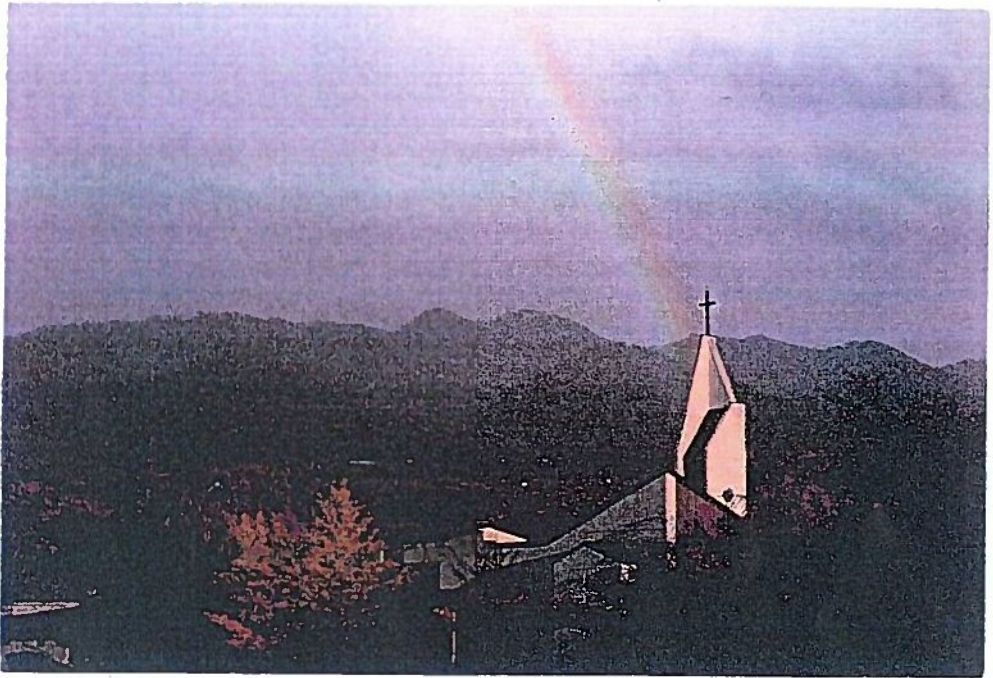


カルメル

霊性センターニュース



北海道伊達カルメル会修道院(Carmel of Date, Hokkaido)

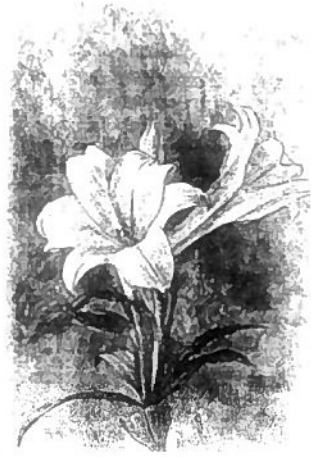
2016年2月

317号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
東京	20
京都	26
名古屋	30
北陸	31
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	44
編集後記	45

心の泉





第二巻

第十二章 聖なる十字架の栄光ある道

6 十字架は愛のはかり

キリストのご生涯は、十字架と殉教と出会ったのに、あなたは休息と喜びだけを求めようとするのか？もし、あなたが苦しみを忍ぶこと以外に何かを探し求めているなら、心に銘記しなさい。それは間違いである。この世のはかない生活は、誠に悲惨であって、十字架に取り囲まれたものである。人は、完徳の道を登れば登るほど、重い十字架にあう。神への愛が深まれば深まるほど、流されの身の悲しみは深くなるのである。

だが、これほどさまざまな苦しみにあっても、慰めが皆無ではない。自分の十字架を耐え忍べば、貴い実を得るからである。進んで苦しめば、どんな重荷も、主からの慰めへの信頼に変わる。体が苦しみに砕かれれば、霊魂は内的な神の恵みによって強められる。そればかりでなく、ある人は、患難と苦しみを望むことによって慰めを感じ、イエスの十字架に一致したいがために、患難と苦痛なしには生きてくいとさえ思うほどである。しかしそれは、人間の徳によるのではなく、キリストの恵みによることである。神の恵みは、人間のもろい肉体が本来ならば嫌悪することを、熱心のあまり愛するほどの心境になるのである。



いつくしみの特別聖年

— 2月 —

教会には

神のいつくしみを告げ知らせる

使命があります。

～教皇フランシスコ～*

気温は3月の中旬から末との予報後に、雪に見舞われたり、自然界はちょっと予測のつかない天候です。しかし、教会の暦は着実に10日の灰の水曜日へと時を刻んでいます。いつくしみの特別聖年の四旬節がはじまります、「回心して、福音を信じなさい」

この聖年の四旬節を神のいつくしみを祝い又実践するための集中期間として、深く味わいながら過ごすことができますように。

私たちを回心に導くみ言葉に聞き入るために、沈黙の価値を取り戻すことができますように。

雑踏、騒音の日々の生活の中で、父のいつくしみのみ顔であるキリストのみ言葉を聞く耳をもつことができますように。

いつくしみは喜びの源、静けさと平和の泉です。*

よい四旬節をお過ごしください。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

*『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』特別聖年大勅書

人を赦す (27)

くのり 彰



昨年の12月8日、無原罪の聖母の祭日から、今年の11月20日、王であるキリストの祭日までの期間を、フランシスコ教皇は、「いつくしみの特別聖年」と定められた。公布の大勅書で、こう述べておられる。

「教会の生命を支える柱は、いつくしみです。教会の司牧行為は、すべてが優しさに包まれていなければなりません」(10)。

そして、この聖年のモットーを「敵を愛しなさい」(ルカ6・27～36)というキリストの教えの最後の言葉から取っている。

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」(36)。

ロゴマークは、キリストが両肩に人間を背負っている図であるが、これは、言うまでもなく迷える子羊のたとえ(ルカ15・4～6)から取られている。そしてその脇にラテン語で”MISERICORDES SICUT PATER”と書かれている。この”MISERICORDES”が日本語では「憐れみ深い」とか「いつくしみ深い」と訳されているわけだが、もとは同じ一つの言葉である。

そして、「憐れみ深い者」「いつくしみ深い者」となることは、目標であり、「努力と犠牲」が必要とされる一種の巡礼であるとし、上述の「憐れみ深い者となりなさい」に続くキリストの言葉を引いておられる(14)。

「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすればあなたがたも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量をよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである」(ルカ6・37～38)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (99)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

修道院に入るのを断念させる (2)

十字架の聖ヨハネの周りに集まったこのセゴビアの若者たちのサロンから、少なからぬ修道召命が出ました。とはいえ、このミゲル・デ・アングロに関しては、聖人は、修道者となることを思いとどまらせました。

証人としては、医者であったヘロニモ・デ・アルカラ・ヤニェス・イ・リベラの言葉があります。彼は、その著書の一つの序言で、こう言っています。「私も、ある夏の間ずっと、カルメル会の神父たちの誉れである聖なる十字架のヨハネ神父を、師とすることができたことを誇りに思います。彼の修道院に私たちは行きましたが、それは彼が賛歌を読み、説明してくれたからです。私の仲間の何人かは、彼の模範に感動し、修道会に入りました。役立たずの私は、別の生き方で従わねばなりませんでした。もっとも確かなことは、修道召命にはふさわしくなかったにせよ、徳においてはとても進んでいたということです。

コルクのように歩く

私が今述べようとする十字架のヨハネの助言—そこには、コルク樫の樹皮が登場—は、コバルピアスのセバスティアンがいつもの博識をもって次のように語っていることとは、関連していません。「『水の上のコルクのように行くこと』とは、何も解決せず、『プラーシーボ・ドミノ』のように行くことを意味します」。

文字通りには、「主を喜ばせるだろう」という意味の、このプラーシーボ・ドミノという言葉は、「運に任せて（訳注：主にゆだねての意か）」と翻訳した方がずっと良かったと思われる。

聖ヨハネのこの助言は、バエサの敬虔なマリア・デ・ラ・パス夫人から伝わったものです。「くだんの聖なる十字架のヨハネ神父がおっしゃり、この証人（訳注：アリア夫人）も聞いたことですが、彼が仕事を愛していたことを知っておりました。が、私にこうおっしゃいました。『私たちは、仕事に支配されてはならない。そうではなく、仕事の上を、コルクが水の上を行くように、行かねばならない』と。そしてこの証人は、彼が苦しみを受ける望みを持っていることを悟りました。彼は私に、『忍耐をもって仕事の苦しみに耐えている人々に好意を抱いている』ともおっしゃいました」。

沖に漕ぎ出せ

主が命じる事に従う

(ルカ5章1～11節)

シモン、名前は上がっていませんが弟のアンデレ、そしてヤコブとヨハネの兄弟たち、彼らは専門の漁師でした。彼らは一晩中漁をして何も取れませんでした。一方、主イエスは本来大工であり、漁のことなど全く知らないはずです。漁師たちは諦めて、舟から上がって網を洗っていました。洗いながらたたんでいました。一旦たたんだ網をまた開くのは結構手間がかかるそうです。でもシモンはイエスの言葉に従いました。多分、それまでにも姑を癒してもらったり、力ある御言葉を聞いたりして、イエスが神から遣わされた人であると感じるようになっていたのでしょう。

取れた魚は大漁でした。長年漁師をしているシモンにとってもそれまで経験したことのないような大漁だったのです。シモンは、神の力に畏れを抱き、「主よ、私から離れてください。私は罪深い者なのです」とひれ伏しました。謙遜なシモンの態度が実によく現れています。イエスは「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」と言いました。

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなささい」という指示は、大きく言えばアブラハムが「あなたは生まれ故郷、父の家を離れ、私が示す地に行きなさい」(創世記12:1)と言われたのと同じです。最初は意味もよく分からず、ただ従ったのです。従っているうちにその意味がはっきりしてきます。ペトロもせっかくたたんだ網をもう一度広げ、漁をしたのはイエスという正しく、尊いお方がそうおっしゃるからに過ぎず、少し魚が捕れるといいなというくらいの気持ちだったと思います。

ケタ外れの漁に恐れたペトロに「あなたはこれから人間をとる漁師になる」とイエスが言われましたが、この言葉もその時のペトロには謎だったでしょう。謎のまま、ただ神の言葉に従ったアブラハムと同じで、神の約束を信じただけです。そして少しずつ、み旨にかなうものへと二人共成長していきました。しかしその最初は、沖に漕ぎ出したことでした。沖に漕ぎ出さなかったら、その後の人生の展開は大きく変わったことでしょう。神は、神に向かって生きることができるよう飛躍できるきっかけを用意してくださっているかもしれません。そのきっかけを逃さず、しっかりとつかみたいものです。

四旬節第一主日 (C) (ルカ 4: 1-13)

四旬節、意味深く大切な時期を迎えている私たちに、教会は個々の日常生活を顧み、反省し、神のお望みに従わなかったことを痛悔してその償いを果たすよう勧めています。神を信じ、神に信頼を置いて生きているわたしたちは自分の弱さを克服していくために必要な力を断食や償い、祈ることによって得ることができると考えています。

宣教活動を始める前にイエスは40日間断食し荒れ野で過ごされました。モーセがエジプトから導きだした人々と共に40年間荒れ野で過ごしたことが思い起こされます。モーセは最後に神からのメッセージである十戒を与えられそれを人々に宣言しました。同じ様にイエスは宣教活動を始める声明として、ナザレの会堂でご自分がこの世を救うために神によって遣わされたメシアであることを宣言なさいました。イエスはイザヤ書の言葉を用いて反対者に立ち向かわれています。モーセが旧約のイスラエル人であるのに対し、イエスは公生活を始めるにあたり祈るために荒れ野に退く新約のイスラエル人です。この二人のイスラエル人はそれぞれ荒れ野で誘惑を受けますがモーセと、共にいる人たちは誘惑に負け、イエスは神の望みを何よりも大切にされ、悪魔の誘いを退かれました。実にその三つの誘惑も同様の類のものでした。

イエスに向けられた三つの誘惑はどれも天の御父が与えられた使命に不忠実であることでした。御父はイエスがいのちを捧げることによって、即ち十字架上の苦しみと死を引き受け生命を捧げることによって、この世の罪を贖う使命をお与えになりました。悪魔は今イエスがこの使命を果たすためのもっと安易な道を示し誘惑しています。イエスはこれらの誘惑に屈服することなく、神である御父の望みの道をご自分の使命として最後まで貫かれます。今日の福音は「悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時がくるまでイエスを離れた。」と結ばれています。しかしイエスの悪魔との闘いは終わったわけではありません。誘惑はそのご生涯のさまざまな機会に何度も何度もありました、特にご受難を目前にゲッセマニの園で苦しみの極みを体験し祈っておられる時に、また十字架の上の最期の時に誘惑を受けました。わたしたちも悪魔との闘いを度々経験しています。人間として誰もが持っている弱さ、他人に対しての利己主義、貪欲な思い、怒りや敵意、嫉妬や恨みなどによるものです。何よりも欲望はわたしたちの誘惑の根源です。これらの誘惑に負けない唯一の方法はわたしたちの生活空間である地域社会、職場や家庭をイエスのメッセージに従うものとするよう日々心がけることです。社会全体が優しさ、正直さ、真理、公平さ、いつくしみと思いやり、真の自由と平和に満ちたものとなるよう祈り、努力することです。この愛に根ざした小さな努力と真心からの祈りは悪魔の誘惑を退け、神であるイエスの恵みによって意味ある結果を生ずるでしょう。教会は悪を退け、いつくしみ深い神である主のみ許にたち帰るよう、全ての人を招いています。

(Sr. Paulina)

四旬節 第2主日

(ルカ9:28b-36)

今日のみことばの箇所は、主のご変容の場面であり、今年（C年）の8月6日（土）主の変容の祝日に読まれる福音箇所と同じです。公生活の中で弟子たちと一緒に歩んでおられるイエス。その歩みの道の中にあつて、イエスがどなたであるのかを、具体的に弟子たちが垣間見ることのできた大きな出来事です。

ご変容の出来事は、マタイ、マルコ、ルカ、3つの福音書で各々描かれています。ルカで特徴的なのは、「祈るために山に登られた」こと、そして「祈っておられるうちに」イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いたことが、まずは挙げられるでしょう。「祈りの中で・・・」。父なる神に向かう祈りの中でイエスの本質、神の子。その輝きが、弟子たちにもはっきりわかる形で、イエスの内面から現れたのではないのでしょうか。

その様な中、モーセとエリアが栄光に包まれて現れ、「イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期の出来事について話していた。」とあり、これもルカの福音書でしか述べられていない描写です。

神の子、人となられた神の御独り子であるイエス。その歩みは十字架に向かう歩み。そしてそのことをはっきりと心に刻む、今日の福音のご変容の場面。私たちが一人一人しっかりと心に留めたいと思います。

四旬節の歩みを歩み始めた私たちですが、イエスの姿を思い巡らしながら、私たちも祈るために、日常の喧騒や慌しさから離れて、自宅、聖堂、その他、神に向かう場所で神様との時を持つことができればと思います。祈っておられるうちにイエスが変わってゆかれた様に、私たちも神とのひと時、祈りのひと時を過ごしているうちに、私たちは自分では気づかないかも知れないけれど、神様によって変えられてゆくのでしょうか。

「これはわたくしの子、選ばれた者。これに聞け」雲の中から聞こえた父なる神の声。この呼びかけの声に耳を傾けましょう。そしてイエスに聞きながら、聴き入りながら、ともに歩んでゆきましょう。

(Fr. 古川利雅)

四旬節 第3主日

みことばのひびき

(ルカ13：1～9)

四旬節第3主日の典礼は、神は聖であり私たちは神のものであることを認めることから始まります。私たちキリスト者にとって四旬節は真剣な自省のときであり、カルワリオの十字架の前で一生懸命に祈るときであり、悔いあらためるときです。神は私たち一人ひとりに断食、祈り、完全な委託により心から神に立ちかえるように個人的に呼びかけておられます。

福音は、実のならないイチジクの木のエエスのたとえ話です。実のならないイチジクの木は神の忍耐とゆるしを強調しています。たとえ話で、主人は三年も待ち、園丁は特別に世話をするのでもう一年待つて欲しいと頼みます。エエスはここで私たち皆に、今や悔い改めと回心のときであると戒めています。いつ神が私たちに最後の説明を求めるかは誰も分かりません。イチジクの木は二種類の人、即ち与える人と受け取る人がいることに気づかせます。与える人はその人が存在の目的を実現するためにおこなった犠牲を象徴しています。この人たちは持っているものを自分のために取置かないで気前よく与えます。取るだけの人では自分の存在を正当化しなければなりません。自分の存在の目的を実現しなければなりません。キリストのメッセージを受け取ることは、回心と心の変革に対して気持ちを開くことです。それは実を結び翕造された目的、すなわち与えることに人を招きます。悔い改めすなわち回心は、神のお世話に答え、いつでも目を開いている生活に身を捧げ、神の恵みに常に新たに協力にすることを意味しています。協力することにおいて、私たちは自分が何をすべきか、どれほど気前よく行なわなければならないかに確信をもっていなければなりません。結末を予測できないこと、準備できることへの緊急の要求が本日の福音のテーマです。

役に立たないイチジクの木のとえ話は、直接的にはキリストの時代の頑固なユダヤ人に当てはめられていますが、あらゆる時代とあらゆる罪びとに対する教訓です。神のあわれみは無限ですが、神のあわれみを受けることができる人間の地上の生活は有限です。罪がどれほどひどいものであっても、神はゆるしてくださいますが、それほどひどい罪でなくても罪を犯した人が後悔してゆるしを求めなければ、ゆるしてくださいません。神と人間の間の仲介者である最高の司祭キリストは常に私たちのために仲裁してくださっていますが、私たちが悔い改めて行いを変えなければ、キリストの仲裁は役に立ちません。たとえ話の園丁は、いつも私たちを介護してくださっているエエスご自身です。毎年四旬節の四季に、キリストは立ち戻するための新たな機会をくださり、私たちが神の王国に相応しい者になるように新たにしてくださいます。

四旬節の間、刷新と痛悔の心で生きる恵みを求めます。痛悔は私たちが自分自身に対して正直になり、実りのなきを認め、神のために正しい実りをもたらすように変わることを必要とします。神がこの四旬節の四季をお使いになり、エエス・キリストを通して溢れるほどの恵みを注ぎ、私たちが痛悔して生活を変えるかどうか自分に問いましょう。

(Sr. Paulina)

佐野洋子作「100万回生きたねこ」は、世代をこえて愛され読み継がれているロングセラーの絵本です。

100万人の人に可愛がられたとらねこが、100万回死んで100万回生きかえります。とらねこが死んだとき100万人の人が泣きますが、とらねこは一度も泣いたことがありません。いろいろな飼い主がいましたが、とらねこはどの飼い主も大嫌いでした。その後、とらねこは野良ねこになり、自分のことが好きになります。或る日、白いねこに出会います。とらねこは恋をして告白して幸せな結婚をします。そして家族のことを自分より好きになります。やがて白いねこはおばあさんになって死にます。とらねこはここで初めて泣くのです。100万回泣くのです。それから自分も死にますが、もう決して生きかえりませんでした。というのがものすごく大ざっぱなあらすじです。

但し、物語は一筋縄では行かない不思議があり、直感、想像、思考などに働きかける深遠があります。それにしても、絵本の表紙のとらねこの何という風貌でしょうか。ほんとうにほれほれします。

表紙の絵とともに、私は随筆家でもあった佐野洋子に、ずっと以前から関心深くありました。詩人の谷川俊太郎の三度目の結婚相手であり、自身も再婚で、その時思春期の息子さんがいたのです。

先頃、新聞にこんな記事が載りました。

佐野洋子の未発表の原稿が発見されたこと。それは一人息子で絵本作家の広瀬弦氏を主人公とする育児エッセーであり、この度「私の息子はサルだった」のタイトルで出版されたこと。記事は、子息広瀬氏へのインタビューの形でかなり大きな紙面であり、私は息をつめる思いで読んだという次第です。

広瀬氏はこんなことを述べておられます。

「僕は佐野洋子のエッセーのネタになっていたが、嫌で嫌でたまらなかった。10代の終り頃、もう勘弁してくれとあの人を叱りました。その後僕を登場させることはなくなったけれど、誰かに読ませたくこっそりと書いていたみたいで、ああ怖い怖いと思いましたね。佐野洋子は、いろんな矛盾の塊をもった強烈な自我の持ち主です。互いに感情をぶつけ合うので三日も一緒にはいられません。がんを患っても、自分らしくいたいとたばこを吸い続け、抗がん剤を拒否し、死ぬ気まんまんと言って亡くなりました。強がりにはわかっていただけで敢えてやさしくはしませんでした。『100万回生きたねこ』のとらねこは、あの人自身かもしれません。」

「私の息子はサルだった」をさっそく読みました。

息子「ケン」の日常を見つめる目は母親ならではであり、切切と温かです。

読みながら涙ぐむことたびたびでした。読後感を言えば、この息子をサルと呼ぶならこの母もサルと呼ぶにふさわしいの一言です。これは私の心からの賛辞です。

広瀬氏はこの本の装画を手がけられ、「あとがきのかわり」という一文を載せておられます。

「そろそろいいか、許してやろう。言いたいことは山ほどあるけど、もう好き勝手に書けばいい。この話は佐野洋子が一方的に書いた僕の記録だ。僕にはもっと楽しく美しい、佐野洋子が知らない僕だけの『ケン』の思い出がある」

私は読みながら身につまされる複雑な感情に襲われました。

母親の奔放な生き方、離婚、再婚、再離婚、そして何よりも何よりも創作へのたゆみない熱情。親子として満ち足りることのない欠落感は、母よりも子の方がひとときわであった筈です。広瀬氏の文中に、ただの一度も母ということばは使われていません。子どもにとって命の綱である絶対の母親を、頼みとできなかつた胸の内を察します。母と子という極限の関係では、悲しみは、もう悲しみなのか喜びなのかわからなくなってしまうほどの、もう神さまに届いてしまうほどのものなのです。

人間が罪深いものとしてエデンの園を出たというのなら、この悲しみを受けてしかるべきなのだろうか、私は眠れぬままに悶々として思いあぐねました。

それにしても思うのです。

不朽の名作を創り出す作者の多くが、自他に及ぶこの深い悲しみを孕み持つのはなぜなのでしょう。何もかも壊すことなく、何もかも犠牲とすることなく、創造することは不可能なのでしょう。

そして私は、破壊、破滅を身におびる作者の作品が断然好きです。

それにしても思うのです。

広瀬弦氏は、何ゆえによりによって絵本作家になったのでしょうか。

私は今、とらねこのように泣きたいです。

いのちの言葉 2月

母がその子を慰めるように
わたしはあなたたちを慰める。

(イザヤ書 66・13)

幼い子供が泣きながらお母さんの腕の中に飛び込むのを誰もが見たことがあるでしょう。何が起きても、母親がその子の涙をぬぐい、優しく抱いてあげると、子供にはすぐ笑顔が戻ります。子供には、母の存在と愛があれば十分だからです。神もご自分を母にたとえ、私たちに対して同じようにされます。

今月のみ言葉は、神がバビロン捕囚から帰還したイスラエルの民に語られたものです。彼らは、家や神殿を破壊され、異国の地に連れ去られて絶望と失望の日々を送り、ようやく祖国に戻ってきましたが、荒れ果てた国の再建に取り組みねばなりませんでした。

イスラエルの民がした悲惨な体験は、戦争やテロ、非人間的な搾取により、今もなお多くの民が味わっています。家々や道路、国のシンボリックな場所や祈りの場所も破壊され、財産は略奪され、多くの人が拉致され、何百万という人々が国から逃亡し、途中の海や砂漠で幾千人もが命を落としています。黙示録の再現のような現実です。

今月のいのちの言葉は、神の存在が感じられない場所でも、そのいつくしみの業を信じるよう、私たちを招いています。希望を告げるみ言葉です。神は、迫害や不正を受ける人、追放される人の傍におられます。私たちと共にいてくださり、私たちの家族や民と共にいてくださるのです。神は、私たち個人の苦しみ、また全人類の苦しみもすべてご存じです。十字架上の死に至るまで人間と一つになってくださった神は、私たちを理解し、慰めるすべを知っておられます。それは母親が子を膝に抱いて慰めるのに似ています。

「神を見る」ためには、目と心を開く必要があります。神の愛といつくしみを体験すればするほど、苦しむ人や試練の内にある人にそれを伝えることができ、私たちは慰めをもたらす神の道具となれるでしょう。聖パウロもコリントの信徒に勧めています。「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」(二コリント 1・4)

キアラ・ルービック自身これを深く具体的に体験し、次のように記して

います

「主よ、孤独な人を皆、私に与えてください。世界を飲み込んでいる孤独に対して、あなたが感じておられる悲痛な思いを、私も感じています。全ての病める人、孤独な人を私は愛します。この人々の涙を誰がぬぐうのでしょうか。死の影が忍びよるこの人々と誰が一緒に泣くのでしょうか。絶望したその人の心を誰が抱きしめてあげるのでしょうか。私の神よ、この世にあって、私をあなたの愛の『目に見える秘跡』、あなたの愛の証し人として下さい。世界中のすべての孤独を抱きしめ、愛の火で燃やし尽くす、あなたの腕とならせて下さい。」¹

ファビオ・チャルディ神父

今月のいのちの言葉は、ドイツのエキュメニカルなグループにより選ばれました。諸キリスト教会の多くの兄弟姉妹と共にこのみ言葉を実践しながら、神の慰めに伴われた一年となりますように。

*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 2月14日(日) 13:30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、鷲沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 2月14日(日) 14:00～ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

長崎 2月28日(日) 14:00～ 浦上教会要理教室

フォコラーレの集い - 家庭をテーマに一日をすごしましょう。

とき 3月12日(土) 10:30～16:00

ところ 聖イグナチオ教会・ヨゼフホール (四ツ谷駅から徒歩1分)

*詳細は各フォコラーレ・センターまで。

連絡先:フォコラーレ 03-3707-4018/03-5370-6424

長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

¹ キアラ・ルービック「プリズム」p13-14

糸巻き棒からペンへ(6)

—現代人のためのイエスの聖テレジアの教え—

エドゥアルド・サンス・デ・ミゲル OGD



彼女の自然的な魅力や明るい気質は、数えきれない人々の心の扉を開き、社会的に実にさまざまな階層の人々との打算のない友情や人間関係の、複雑なネットワークを構築していく助けとなりました。とはいえ、愛想のよさと聖性が両立するのが分からない人々の間では、大きな困難が引き起こされました。聖性とまじめさを同一視し、単純さや上機嫌でいることは、軽薄であると考える人が大勢いたからです。

聖女はこれを意識していました。そこで姉妹たちに、勧告します。「喜びをもって歩むよう努めるべきです。少しでも何かをおろそかにすると、敬虔はどこかへ行ってしまうと考えている人々がいます」(『自叙伝』13, 1)。「あなた方に接するすべての人に愛想よく振る舞うよう努めなさい。その人たちが、あなた方と話すのが好きになり、あなた方の生き方や振る舞い方にならなくなりたい、決して徳というものに震え上がったり、怖がったりしないように。修道女にとって、これはとても大切なことです。つまり、人は聖人になればなるほど、ますます姉妹たちに親しみやすい者となるのです」(『完徳の道』41, 7)。なぜなら、「愛は、伝えられることによって、成長する」からです。また「悲しげな聖人は、可哀想な聖人です」とか、「かたい靈魂は、神によく仕えることはできません」とも言っています。また「悲しみと憂鬱、これらは、私の家では望みません」という言葉を好んで繰り返しました。実際、福者バルトロメのアンナ(創立時の仲間であり、聖女の看護係)は、私たちに次のような貴重な証言を残してくれました。「(聖女は)、悲しげな人々の友ではありませんでしたし、悲しげな人でもありませんでした。一緒に行く人々が悲しげであることも望みませんでした。『神は、しかめ面の聖人から私を解放してくれます』といつも言っていました」。

2. 時代背景から見た聖テレジア

私たちは皆、聖テレジアが、祈りの師であり、歴史上、最も偉大な神秘家の一人であると知っています。けれども、時々、彼女の人間的な次元を見落としてしまいます。この次元は、彼女が生きた歴史的背景から彼女を眺める時、より際立ちます。私たちは、天使や雲に囲まれた聖女を絵画の中で見るのに慣れてしまっているのです、地に足をつけた一人の女性であることを忘れてしまいます。女性であるがゆえに見聞きした当時の女性蔑視の状況を、彼女は十分に意識していました。

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

2015年12月14日

十字架の聖ヨハネの祭日ミサ 総長の説教

十字架の聖ヨハネは、単純で内気な隠れた生活を愛する人でした。しかし、毎年、典礼暦における彼の祭日には、彼は、言わば暗がりから出て、全教会の前に、キリスト者や修道者の模範として、また霊的な道における教師かつ案内者として、姿を現わすために、明るみに出るよう強いられています。

彼と同じ召し出しを分かち合う兄弟姉妹である私たちにとって、この祭日は特に重要です。それは、懇願であり、私たちの人生の基本的な諸価値に連れもどす呼びかけであり、それらの諸価値にもどり、それらの中に意義と美しさを見出すようにとの招きなのです。このことは、ここテレジアヌム国際神学院において、一層真実です。これから、聖体祭儀において四人の神学生が、聖テレジアと十字架の聖ヨハネの跣足カルメル修道会への主の召し出しに対し、決定的な“はい”を宣言することになります。

私たちの国際神学院は、十字架の聖ヨハネの名をいただいています。これは、私たちが彼と、すなわち彼の人生、彼の教えと一体であること、またそこから養成のプログラムや具体的な様式、人間的霊的成長の旅路を理解するのだと思います。ここでひとつ強調したいことは、私たちすべての跣足カルメル会士は、私たちの聖なる父である十字架のヨハネについて養成の時に学ぶだけではなく、(養成を終えた)全ての者も彼の学び舎に身を置くべきだということです。多分私たちは、これを余りにもわずかしが行わないため、霊的に貧しくなっています。それによって、『会憲』第12条で言われているように、「改革カルメルの召命は、彼の(訳注：十字架の聖ヨハネ)の生涯と教えの内に反映している」ことが真理であるならば、私たちの召命についての明瞭さと明快さが失われることになります。

とりわけ現代において、一つのこと、言い換えれば、聖ヨハネから学べる、また学ぶべき基本的態度は、希望の態度です。十字架の聖ヨハネは、しばしば“信仰の教師”と見なされており、まさにそのとおりですが、彼は同時に“希望の教師”であります。この局面は、特に現代において重要です。なぜなら、私たちの世界は、希望すること、すなわち、広く、寛大で、人としてふさわしい希望をもって未来を見続けることに飽いているからです。修道者として私たちを例外としないようにしましょう。実際、希望の衰退や短期的な展望による希望の減少——それは私たちの信じ愛する能力の危機の徴でもあります——の脅威にさらされているのは、他ならぬ修道者だからです。

十字架の聖ヨハネは、希望をどのように教えているのでしょうか。このためには、この質問に適切な答えを提供する専門家を必要としています。(私はこの機会を、兄弟である、価値ある“カルメル会国際神学院”の教授方と学生の皆さんにお譲りしたいと思います。)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

私として言えることは、あなた方が十字架の聖ヨハネを読む時、単に一つのことだけでなく基本的なことを理解している一人の人間の前にいる自分を見出すという明確な気持ちを、あなた方が持つということです。その基本的な理解とは、神は私以外の御方であり、それゆえ私はひとりではなく、絶えず自分やその有限性のイメージに引き戻そうとするものや人に囲まれているのではないということです。十字架の聖ヨハネは、詩人ウンガレッティの有名な、非常に短い“劫罰”という詩にある質問に対する答えを持っています。「死すべきものに取り囲まれて / (きらめく天国さえも終わりを告げよう) / なぜ私は神を慕うのか?」。十字架の聖ヨハネの答えは、おそらく次のようなものでしょう。“まさにこの事実のゆえに！ 神はこれらの一切ではなく、あなたでもない、人よ、あなたは死すべきものの囲いをはるかに超えたもの、それ以上のものである”と。

神は、人間の推論に対する結論でも私たちの道徳生活の可能条件でもなく、願望や不満を抱えた懐古主義の対象でもありません。神は神であり、神と私たちの間には分離、断絶、不連続が存在します。しかし、まさにこのことゆえに、私たちを助けに来られる御方であり、“死すべきものに取り囲まれている”存在から私たちを解放することができる御方なのです。神は、私たちの強迫的な反復から解放することができる唯一の創造力であり、沢山のどうでもよいガラクタで一杯の私たちの生活を空っぽにし、満たすことのできる唯一の御方なのです。

神は私たちのためにおられるという事実、神は私たちにとって本当に生きた真実の神であるということは、私たちを歩ませるもの、この世のものとは異なる地平線、ゴールを私たちに与えてくれるものです。しかし、注意して下さい。この世のものとは異なる地平線ですが、“非人間的”でも“人間的でない”のでもありません。これこそキリスト者の神の神秘です。神の神秘は、“異なる仕方人間である”神の神秘です。神は、単に異なる存在ではなく、私たちと様相や親密さに違いがあります。このゆえに神は、私たちの神であり、イエス・キリストの神、第二バチカン公会議が50年前に述べたように“人間を人間自身に完全に現された”(現代世界憲章22)神、霊の賛歌の浄配である神です。

ときに長く難しい聖ヨハネのページには、パトス、この体験の炎があります。人は、私たちが通常考えているようなものではなく、その生は、私たちが普通に生きている以上のものだということです。これは、輝かしい体験へと定められた並はずれた人々や英雄が存在するからではなく、神は存在し、それゆえ人は独りきりではなく、またすべてでもないからです。神に感謝します。私たちの目にとまらない真実の本当のことが、実に沢山あります。この確信は私たちに道を開きます。それは、「カルメル山登攀」にある“まだ知らないところへ至りつくためには、何ごとも知らないままに通りすぎてゆかなければならない”ということです。(カルメル山登攀 第一部13:11)

親愛なる兄弟の皆さん、あなた方が今、貞潔・清貧・従順の莊嚴約束を立てようとするならば、本質的にこの道を旅し、この標識に従うのだということを知ってください。さもなければ、おそらく、努力する価値はないでしょう。また、自分を空にすると同時に希望を持ってください。なぜなら、——兄弟聖ヨハネのことばで話を締め括りましょう——“他のものを所有していなければいらないほど、望むべきものを望む力と幅とが大きくなり、その結果、望徳が増すことになる。”(カルメル山登攀 第三部15:1)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

13/12/2015

The Teresian Carmel flourished in Southeast Asia

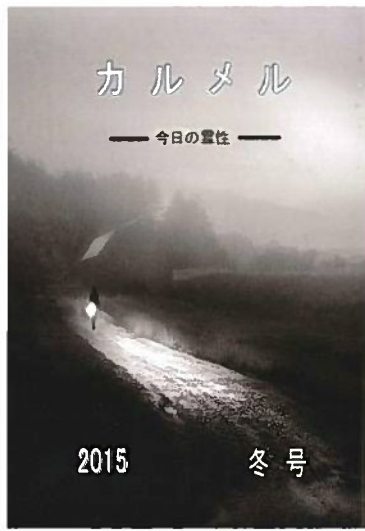
We witness considerable growth in the Teresian Carmel of Southeast Asia during these times. The Secular Carmel leads in numbers and drive, followed by our Discalced Carmelite nuns, and finally our friars. Our friars are present, specifically in Thailand, since 2011. This year they inaugurated a magnificent house in Samphan, near Bangkok (see photos).

As for our sister Carmelites, some monasteries have been present for nearly a century, while others have been founded more recently. By country, the monasteries number: Cambodia (1), Philippines (22), China, Hong Kong (1), Malaysia (2), Singapore (3), Thailand (4), Taiwan (2), Vietnam (9). The Singapore Carmelites are finalizing preparations for a future foundation in Burma.

In a more academic and international sphere, the Discalced Carmelites (in collaboration with the Sisters of Our Lady of Mercy of Berriz in Taiwan) organized a series of congresses on the spirituality of Carmel as part of the celebrations of the 5th Centenary of Saint Teresa. They have had excellent acceptance, particularly in Fu Jen University (Taiwan) in which Fathers Rómulo Cuartas of the University of Mysticism - CITEs - in Ávila and Emilio J. Martinez of the Teresianum in Rome will present on December 11 and 12. Father Martinez will continue on to the Baptist University of Hong Kong, China, where he will offer conferences on Saint Teresa on December 18 and 19.

Meanwhile, on December 11, Father Antonio González headed out to a new mission in East Timor. The mission was prepared by the Province of Portugal with the support of the Iberian Province of Saint Teresa and the Province of Saint Joachim in Navarre. Still pending is the appointment of the new bishop of the Diocese of Dili, where our house will be located.

「カルメル」
今日の霊性・冬号
今日の霊性・秋号



2015 冬 No.359

2015 秋 No.358

神が慈しまれた道 (8)

奥村一郎 50

西行と芭蕉の霊性
——「空」と「枯野」に行く心 (10)

田畑邦治 43

マリアの信仰

ポーリン・フェルナンデス 37

歴代教皇の寸描 (3)
——ピオ十二世からヨハネ二十三世へ

高橋重幸 32

聖人
ルイとゼリー (4)
——幼いイエスの聖テレーズの両親

中山真里 25

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (13)
——山頂への眺め
マリー・エウジエンヌ
編・訳 伊従信子

18

風に吹かれて
——ある情景 (6)

原 造 16

エディット・シュタインの著作に見るアピラの聖テレサ
——折りの真髓

須沢かおり 9

修道生活の改革
——アピラの聖テレシアの理想 (4)

九里 彰 3

● 目次 ●
● 今年の特集 聖テレシアと奉獻生活 ●

エディット・シュタインとアピラの聖テレサが口にしたもの
——魂の城 (2)

須沢かおり 16

イエスの聖テレシアと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (3)

松田浩一 9

修道生活の改革 (3)
——アピラの聖テレシアの理想

九里 彰 3

購読のご案内

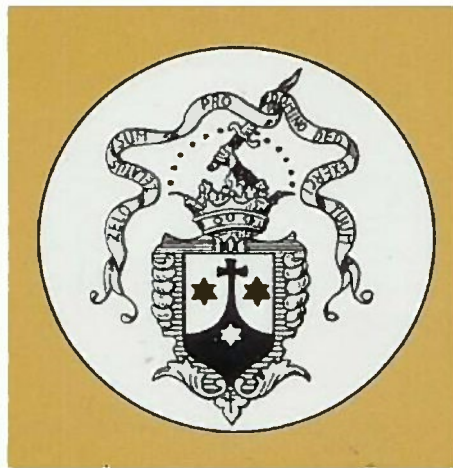
雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



《 カルメル会 四旬節講話シリーズ》

神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—



日時： 2月14日（日）： 三上 和久神父（カルメル会司祭）
「福音と家庭、教育の原点である神のいつくしみ」

2月21日（日）： 今泉 健神父（カルメル会司祭）
「いつくしみの泉である教会」

2月28日（日）： 松田 浩一神父（カルメル会司祭）
「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ —イエスの聖テレサの場合—」

3月6日（日）： Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」

3月13日（日）： 九里 彰神父（カルメル会司祭）
「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」

日時： 上記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）
〈カルメル修道会主催〉

場所： カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会 [TEL:03-3704-2171](tel:03-3704-2171)

*****日帰り黙想会*****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時： 2016年 1月28日(木) 午後1時30分～午後4時

2月12日(金) ”

2月25日(木) ”

3月11日(金) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

黙想企画 **上野毛聖テレジア修道院(黙想)**

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2016年 3月24日(木)夕食～27日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

2016年

4/28(木)、5/13(金)、5/26(木)、6/24(金)、6/30(木)、
7/8(金)、7/21(木)、9/8(木)、9/16(金)、10/28(金)、
11/11(金)、11/24(木) 12/9(金)、12/22(木)

2017年

2/9(木)、2/24(金)、3/9(金) 3/24(金)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

7月31日(日) 18時～	8月 9日(火) 朝	福田正範神父
8月12日(金) 18時～	8月21日(日) 朝	福田正範神父
10月13日(木) 18時～	10月22日(土) 朝	福田正範神父
12月27日(火) 18時～	2017年1月5日(木) 朝	福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

4月16日(土) 16時～17日(日) 16時

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

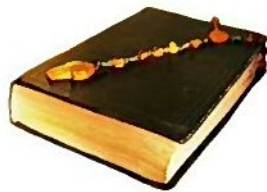
3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

5月27日(金) 20時～29日(日) 16時

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

聖週間前の黙想会

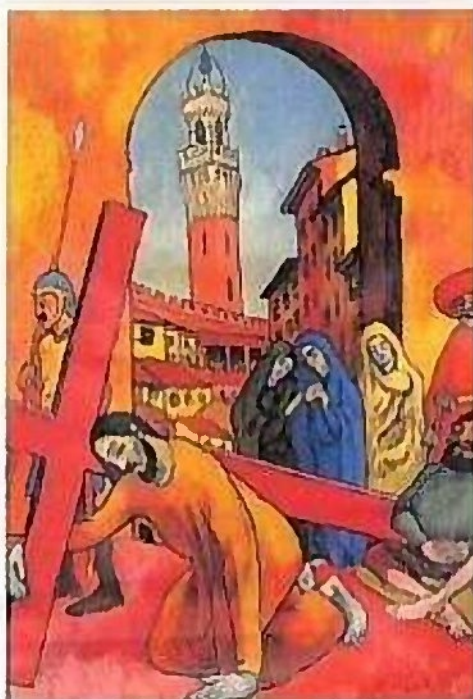
過ぎ越しの子羊・キリスト

日時：2016年3月18日(金) 18:00～20日(日) 15:00

指導：福田正範神父(カルメル会司祭)

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院黙想の家

会費：¥12,000



お問合せ、お申込み：TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@armel-monastery.jp

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

聖週間の典礼に参加するための黙想会

聖なる過ぎ越しの三日間の典礼に参加し、黙想しましょう。

*日時: 3月24日(木)夕食~27日(日)朝食後 10 時まで

24日(木)は、午後 3 時より入室できます

*費用: 一泊¥5000(一泊から可)

*お問合せ・お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話: 03-5706-7355 FAX: 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

*****上野毛教会聖週間の典礼ご案内*****

3月24日	聖木曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		19:30	主の晩餐の夕べのミサ 洗足式
3月25日	聖金曜日	6:30	読書の祈り・朝の祈り
		15:00	十字架の道行
		19:30	主の受難
3月26日	聖土曜日	7:00	読書の祈り・朝の祈り
		18:30	復活の聖なる徹夜祭 洗礼式
3月27日	復活の主日	7:00	8:30 10:30 18:00

2016年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	4月16日(土)～17日 5月6日(金)～8日 9月10日(土)～11日	復活したイエスを捜しつづける私たち イエスいつくしみの愛のもとに留まる 人生の美りを思いめぐらす	中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
-----------------------	--	--	----------------------------

【聖書深読黙想会】

・ 1日	2月6日(土) 4月9日(土) 5月14日(土) 6月11日(土)	9月10日(土) 10月22日(土)	中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父 中川博道神父
------	--	-----------------------	--------------------------------------

・ 水曜の黙想

(午前10時～午後4時)	2月24日(水) 3月16日(水) 4月20日(水) 5月18日(水) 6月8日(水) 7月20日(水) 9月21日(水) 10月19日(水) 11月16日(水)	生きることの見直し キリストの過ぎ越し イエスと共に日々を振り返る 神のいつくしみの啓示者イエス。キリスト 神のいつくしみとイエスの聖テレサ 神のいつくしみと十字架の聖ヨハネ 神のいつくしみとエディット シュタイン 神に愛されている喜び いつくしみの御母、聖マリア	中川博道神父 松田浩一神父 シスターロサ 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 シスターロサ 松田浩一神父
--------------	---	--	--

キリスト教霊的同伴

午後8時～午後3時まで (金) 夕食なし	2月19日～20日(土) 3月18日～19日(土) 4月22日～23日(土) 6月03日～04日(土)	9月2日～3日(土) 10月21日～22日(土) 11月11日～12日(土) 12月2日～3日(土)	松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父
-------------------------	--	---	--------------------------------------

・ 四旬節の黙想

(午後5時～午後4時)	3月5日～6日(土)	問題性から脱出すること	中川博道神父
-------------	------------	-------------	--------

・ 待降節の黙想

(午後5時～午後4時)	12月10日(土)～11日(日)	夜露のように静かに訪れる神を待つ	中川博道神父
-------------	------------------	------------------	--------

・ 聖テレサの黙想

(午後5時～午後4時)	9月30日(金)～10月1日(土)		伊徒 師
-------------	-------------------	--	------

カルメル青年の集い

(午前10時～午後4時)	4月29日(金)	11月23日(水)	松田浩一神父
--------------	----------	-----------	--------

一般のためのカルメルの霊性セミナー

(午後5時～午後4時)	2月6日(土)～7日(日) 5月2日(月)～5日(木)	カルメルの最初の隠修士の霊性 イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1)	松田浩一神父 松田浩一神父
	10月14日(金)～15日(土) 12月13日(火)～14日(水)	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊性(1) イエスの聖テレサの霊性 十字架の聖ヨハネの霊性(2)	松田浩一神父 松田浩一神父 松田浩一神父

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月2日(火)～11日(木)		中川博道神父
	8月15日(月)～24日(水)		松田浩一神父
	12月27日(火)～1月5日(木)		松田浩一神父
English Retreat (10am to 4pm)	5月28日(土)	Come to me you broken hearted.	シスター-ロサ
	11月26日(土)	Maranatha-Come Lord Jesus	シスター-ロサ

祭日のミサに参加するために

- 【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
 3月31日(木)～4月3日(日) [講話なし、各食事つき]
 【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
 12月24日(土)～12月25日(日) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
 宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴**(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

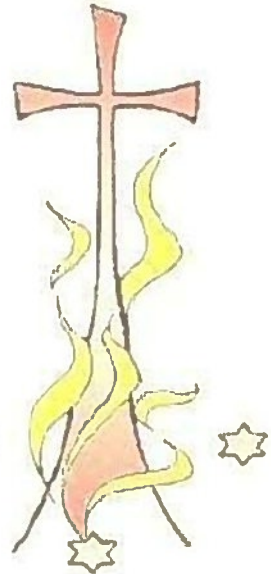
【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(**霊的理解**)を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土)
3月18日(金)～19日(土)
6月 3日(金)～ 4日(土)
7月 8日(金)～ 9日(土)
9月 2日(金)～ 3日(土)
10月21日(金)～22日(土)
11月11日(金)～12日(土)
12月 2日(金)～ 3日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

一般のためのカルメルの霊性セミナー

場所 : カルメル会聖テレジア修道院<黙想> (京都)

日時 : 2月6日(土) PM5:00
~7日(日) PM4:00まで

テーマ : 『神と共に歩む独り暮らしの霊性』

《カルメルの最初の隠修士の霊性から》

参加者 : カルメル会の霊性に興味のある人

参考図書 : 「カルメル会の会則とその精神 : ドン・ボスコ社」

費用 : 7,000円

指導 : 松田浩一 神父 (カルメル会士)

<2月7日(日)のみ参加可能 : その場合の費用 3,500円>

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

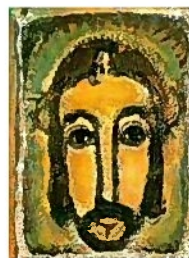
FAX 0774-32-7457



teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ — 特別聖年を迎えて —

1. 日時：1月23日（土）「いつくしみの特別聖年について」
九里 彰 神父
3月21日（月）「十字架の聖ヨハネを捕らえた神のいつくしみ」
九里 彰 神父
5月21日（土）「神のいつくしみのうちに真理を学ぶ
—イエスの聖テレジアの場合—」
松田 浩一 神父
7月18日（月）「神のいつくしみの生きた証人となれ…
（福者フランシスコ・パラウと他）」
Sr. ポーリン・フェルナンデス（カルメル宣教修道女会）
9月19日（月）「いつくしみの泉である教会」
今泉 健 神父
11月23日（水）「神のいつくしみ ～テレーズの果てしない希望～」
Sr. 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

2. 場所：カトリック日比野教会 信徒会館
（地下鉄・名港線日比野駅下車 徒歩約5分）

3. 参加費：1000円

4. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当

5. プログラム

- 10:00 導入の祈り（聖堂）
- 10:20 第一講話（信徒会館）
- 11:30 念祷 ① 赦しの秘跡または面接
- 12:00 昼食（信徒会館）
- 12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接
- 13:00 第二講話
- 14:00 念祷 ③
- 14:30 ミサ（聖堂）
- 15:30 茶話会（信徒会館）
- 16:00 終了の祈り

6. 申し込み：下記いずれかの方法でお申込み下さい。

FAX / 0568 - 62 - 5167

mail / seisyuu_2015@yahoo.co.jp

ハガキ / 〒484-0076 犬山市橋爪一丁田 1-26

「名古屋一日静修」係り

〈カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛〉

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

13：30～ 聖書朗読 短い講話

14：30～ ベネディクション 聖体顕示

15：30～ 聖体拝領

16：00～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザクの病人 (ヨハネ 5:1,-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1,-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☞ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町鱈浦 1391-7
☎ 0968.85.3100
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2016年～2017年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2015年度 冬学期: 1/30, 2/6

2016年度 夏学期: 4/9, 4/23, 5/7, 5/14, 5/21,
5/28, 6/11, 6/25, 7/2, 7/9, 7/23, 9/3, 9/10, 9/17

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。
・「通う霊操」 8月20日(土)～8月28日(日)
18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切日は、初日の8日前。
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

2016年

2月13日、3月5日、4月9日、5月7日、6月11日、7月2日、
8月6日、9月10日、10月1日、11月12日、12月3日

2017年

1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、4月28日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

4月28日(木) 20時20分～5月5日(木) 8時40分
6月3日(金) 20時20分～5日(日) 13時00分
8月7日(日) 20時20分～13日(土) 8時30分
10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。

[関西]

4月16日(土)13時30分～17日(日)15時、7月30日(土)17時45分～8月5日(金)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
4月23日(土)、6月25日(土)、10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- イエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)
- 02/05 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 02/12 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
- 02/19 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 02/26 死— その受け入れと克服
- 03/04 人生の完成— 神の内に生きる
- 03/11 聖母マリア— 信じる者の原型
- 03/18 ●御受難と御復活の黙想(予定)
- 03/25 ○休み(聖金曜日)
- 03/27 ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
- 4/8 信仰の道— 人生の意義を問う
- 4/15 聖書の間人像— 人間の現状と使命
- 4/22 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
- 5/6 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
- 5/13 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
- 5/20 歴史と信仰— 神との出会い
- 5/27 内なる神— その「似姿」としての人間
- 6/3 新約聖書の神理解— 主なる父
- 6/10 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
- 6/17 救い主の役割— 人類の待望
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/24 神の国— イエスの告げるメッセージ
- 7/1 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
- 7/8 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
- 7/15 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
- 7/22 イエスは誰か— イエスの自己理解
- 7/23 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
- 7/29 最後の晩餐— 自分を与えるイエス

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [日常生活]
- 02/02 秘跡の恵み—たえざる刷新と神のいのちの深まり
- [信仰の実現]
- 02/16 祈りの本質と霊的読書—キリストとの心の交流
- 03/01 創造的霊性—活動における観想
- 03/15 「聖徒の交わり」—信仰の内に支え合う
- 03/27 ■復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
- 03/29 ○休み
- [基盤]
- 4/5 存在の超越と内在 — 神理解への道
- [人間]
- 4/19 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰
- 5/17 救いの歴史 — 時間における意義
- [神]
- 5/31 無限への問い — 理性による神理解
- 6/7 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理
- 6/18-19 ●黙想会(上石神井)
- 6/21 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様な形
- 《場所・お問い合わせ》
- 聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584
クラウド・リーゼンフーバー神父
- 〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、
キリスト者としての靈性を養うための
沈黙の祈りで構成された集いです



東京 いつくしみの特別聖年に

2月27日（土） 午後2時～午後5時30分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い

講話 伊従信子

3月21日(祭日月曜日) 1日静修特別プログラム

参加費 200円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

京都

2月 9日（火）13時半～15時半 河原町カトリック会館3階304室

* 『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』 担当：伊従信子

『弱さと神の慈しみ』伊従編著、サンパウロ出版

* 祈り：「都の聖母」聖堂にて 15～15時半

2月13日（土）13時半～15時 京都NDV 担当：伊従信子

* 『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』

* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫
7章 神により頼む

2月20日（土）14時～16時 河原町カトリック会館7F

* 『神の御前で』

祈り：「都の聖母」聖堂にて15時半～16時 担当 中山真里

~~~~~

京都NDV お問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町4

TEL・FAX(075-462-3525) email : [ndvkyoto@gmail.com](mailto:ndvkyoto@gmail.com)



## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>  
**★申込み受付・・・開始日の8日前で締切ります**

| コース                           | 日時<指導者>                                                    | 指導者  | 開催場所                      | 申込み                               |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------|------|---------------------------|-----------------------------------|
| サダナ I                         | 2/11(木)17:30-<br>2/14(日)16:00                              | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 若山美知子※<br>Tel&Fax<br>03-5802-3844 |
| フォロー<br>アップ                   | 2/28(日)<br>9:30-17:00                                      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| サダナ II                        | 3/17(木)17:30-<br>3/21(月)16:00                              | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山市) | 同上                                |
| 入門 A                          | 4/10(日)<br>9:30-17:00                                      | Fr植栗 | ニコラバレ修道院1F<br>(四ツ谷)       | 同上                                |
| 自己を知る<br><br>*1泊2日×<br>2=合計4日 | 4/16(土)9:30-<br>17(日)17:00<br>4/23(土)9:30-<br>4/24(日)17:00 | Fr植栗 | 汚れなきマリア修道会<br>町田黙想の家      | 同上                                |
| ダイアリー                         | 5/4(水)17:30-<br>5/8(日)16:00                                | Fr植栗 | 三位一体聖体宣教女会<br>東京修道院(東村山)  | 同上                                |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

### ◆サダナ I (入門 A, B, C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または入門 B を終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2016年 5月 30日(月)～ 6月 7日(火) 中川博道 師（加母会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カタカナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 捧げるということ

2015年度 召命黙想会

|   | 日時               | テーマ              | 講師          |
|---|------------------|------------------|-------------|
| 1 | 5月16日(土)～17日(日)  | 網を捨てて従う          | 山内十束師(ご受難会) |
| 2 | 9月12日(土)～13日(日)  | 人里離れたところに行く      | 山内十束師(ご受難会) |
| 3 | 11月21日(土)～22日(日) | あなたがたがパンを与えなさい   | 山内十束師(ご受難会) |
| 4 | 2月13日(土)～14日(日)  | イエスよ、私を忘れないでください | 山内十束師(ご受難会) |

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院  
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 捧げるということ

イエスよ、私を忘れないでください

2015年度 第4回 召命黙想会

日時： 2016年2月13日 (土) 15:00 ~

14日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年2月7日 (日) まで

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 祈り：講話と実践

## 沈黙の内に神を求めて — 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

### 【2016年予定】

- 3月17日(木) 『霊の賛歌』 第1回目：導入の講話（緒言と詩）
- 5月26日(木) 『霊の賛歌』 第2回目：はしがき・概要・注解
- 7月21日(木) 『霊の賛歌』 第3回目：第一の歌（2～12）
- 9月22日(木) 『霊の賛歌』 第4回目：第一の歌（13～22）
- 11月17日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第二の歌
- 12月15日(木) 『霊の賛歌』 第5回目：第三の歌

\* 参加費無料（献金歓迎）

\* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）



### ＜＜特別黙想会＞＞

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい旋

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡賢雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/退屈/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復讐/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋の霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

**オリエンズ宗教研究所** 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

**New!** 男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

**郵便番号口座： 00110-4-297250**

**加入者名： カルメル靈性センターニュース**

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

先月中旬、北海道から名古屋へ戻る時、新千歳空港のロビーで、実に悲惨なテレビ番組を見た。それは、敗戦直後の満洲での悲劇を扱ったもので、ソ連軍が町や村にやってきて、金品を強奪した挙句、女性はみな強姦、輪姦されたという話である。目撃者であった子供（現在は 70 代後半から 80 代）は、戦後、家族の者にもだれにも話せず、最近まで胸の奥深くに押し込めていたようである。男は皆、軍隊に行き、残された町や村にいるのはほとんど女と子供だけ。女子供には手を出さないなどと言うのは、平和ぼけした日本人の理屈。白昼、自動小銃を持った兵士が銃口を突き付け、女性を裸にし、子供たちの目の前で母親が、あるいは母親の目の前で娘が犯される。鬼畜にも劣る残虐無道の行為をするのが戦争である。

似たようなことが、戦争が起こるたび、今なお世界各地で繰り返されている。それは、人間がそのように創られているからである。人間は、天使のようにもなれば、悪魔のようにもなれる。このような意味でも、戦争はしてはならないし、軍隊や軍備の必要のない世界を作り出してゆかねばならない。エルサレムに近づいた時、キリストは都のために泣かれて、言われた。

「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。」（ルカ 19・42）

(P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「3月号」製本日

**2月23日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール 1 階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171